

東京学芸大学附属国際中等教育学校 ソーシャルアクションチーム kokusaiチーム

高校生ボランティア・アワード2024

「ケニアとモロッコのコマリゴトに、遠い日本から関わってみた！」

VISION

離れた地の問題解決に向けてジブンゴトとして
働きかけることができる身近なツールを提供する

MISSION

はじめの一步を提供する商品を通したきっかけ
づくり

私たちは、東京学芸大学附属国際中等教育学校ソーシャルアクションチームのkokusaiチームです。kokusaiチームは、左記の"VISION"と"MISSION"を掲げ、途上国支援を主とした国際的な活動に取り組んでいます。中学生が遠く離れた地域の課題解決に自ら取り組むことは非常にハードルが高いと感じています。その一因は、現状の課題に関する情報を得る機会が不足しているためと考えます。私たちは、より多くの人々に遠く離れた地域の課題をジブンゴトとして捉え、支援に関わってもらうため、まず「知る」機会を提供しようと考えました。そこで、中学生にとって身近で魅力的な商品を、現地の素材を使って提供することを通じ、問題解決に向けた行動を起こすきっかけを提供することを目指しています。

MOROCCO

Daisy Days for Morocco
~モロッコが抱える問題について楽しく知ろう~

【活動概要・活動目的】

日本の中学生に、遠く離れたモロッコが抱える問題について楽しく知ってもらうことを目的に、現地の素材を活かした商品の開発・販売を目指して活動しています。商品の販売を通して、遠い国の社会課題をジブンゴトとし、社会貢献に無難に取り組むことができるきっかけを提供することを目指しています。

【活動の経緯】

moroccoプロジェクトはkenyaプロジェクトに続き、昨年4月に始動しました。「離れた地の問題解決に向けて活動をしたい」という志を持った仲間が集まり、活動の対象とする国を決定するところから始まりました。インターネットでのリサーチやJICA地球広場の訪問などを通じて様々な国が抱える諸問題について学びました。その中で、以前に青年海外協力隊としてモロッコで障害児教育の活動をし、当時現地で新しい活動を始めようとしていた日本人の方にオンラインでお話を伺う機会をいただきました。そこで、モロッコの田舎に住む女性や障がいをもつ女性の雇用問題について知り、モロッコを活動の対象とすることに決めました。

【活動の詳細】

○モロッコ女性の雇用問題とは

モロッコと日本を繋いだオンラインミーティングで伺った「モロッコ女性の雇用問題」の実情は以下の内容でした。

『モロッコの田舎に住む女性たちは、早くに結婚・子育てをして、夫の稼ぎに頼って生活していることが多い。そのため、気を遣って生活している場合が多く、自分で自由に使えるお金が欲しいと思う女性は少なくない。また、結婚をしていなくても、父親が仕事がないためお金がない暮らしをしている場合がある。このような女性たちは身体の不調があった時に薬を購入できないこともある。また、障がいのある女性は読み書きができない、あるいは小学校しか卒業していないことが多いため、雇用機会から排除されることが多い。それゆえ仕事があったとしても、交通手段、質の高い医療、誠実な資金などに関する支援などを得ることができないという問題がある。』

○学園祭や地域のイベントでのモロッコの商品の販売

モロッコと日本を繋いだオンラインミーティングを受けて、日本でもあまり知られていない本問題を広め、関心を持ってもらいたいと思うようになりました。どうすればより多くの人に知ってもらえるかを考えたところ、kenyaプロジェクトと同様に「社会課題」としてではなく「商品の魅力」から本問題について知れたら良いのではないかと考えました。したがって、オンラインミーティングを行った方を通じてモロッコの商品を購入し、学園祭や地域のイベントで販売しようと考えました。商品を購入する先として紹介していただいた団体は Association Al Amal と Al Nour です。Association Al Amal はカルメット ベンザムという小さな村にある女性たちの職業支援協会で、生活を豊かにするためのお金を集めるために女性たちが縫製を手縫いし、商品を作成しています。商品には「自分の力で稼ぐことができるようにしたい」という思いが込められていました。Al Nour はマラケシュを拠点とする会社で、モロッコの伝統工芸である刺繍の雇用を通して、様々な障害を持つ女性に自立した生活を送る機会を提供しようとしていました。商品販売に至るまでには、モロッコで活動される方との密な連絡の取り合い、仕入れ値に応じた売値の設定、ポップの作成などを行いました。また、商品を通じてモロッコ女性の雇用問題に関する正しい情報を発信できるように、カードを作成し商品と一緒に配布しました。



○モロッコ地震の校内募金・街頭募金

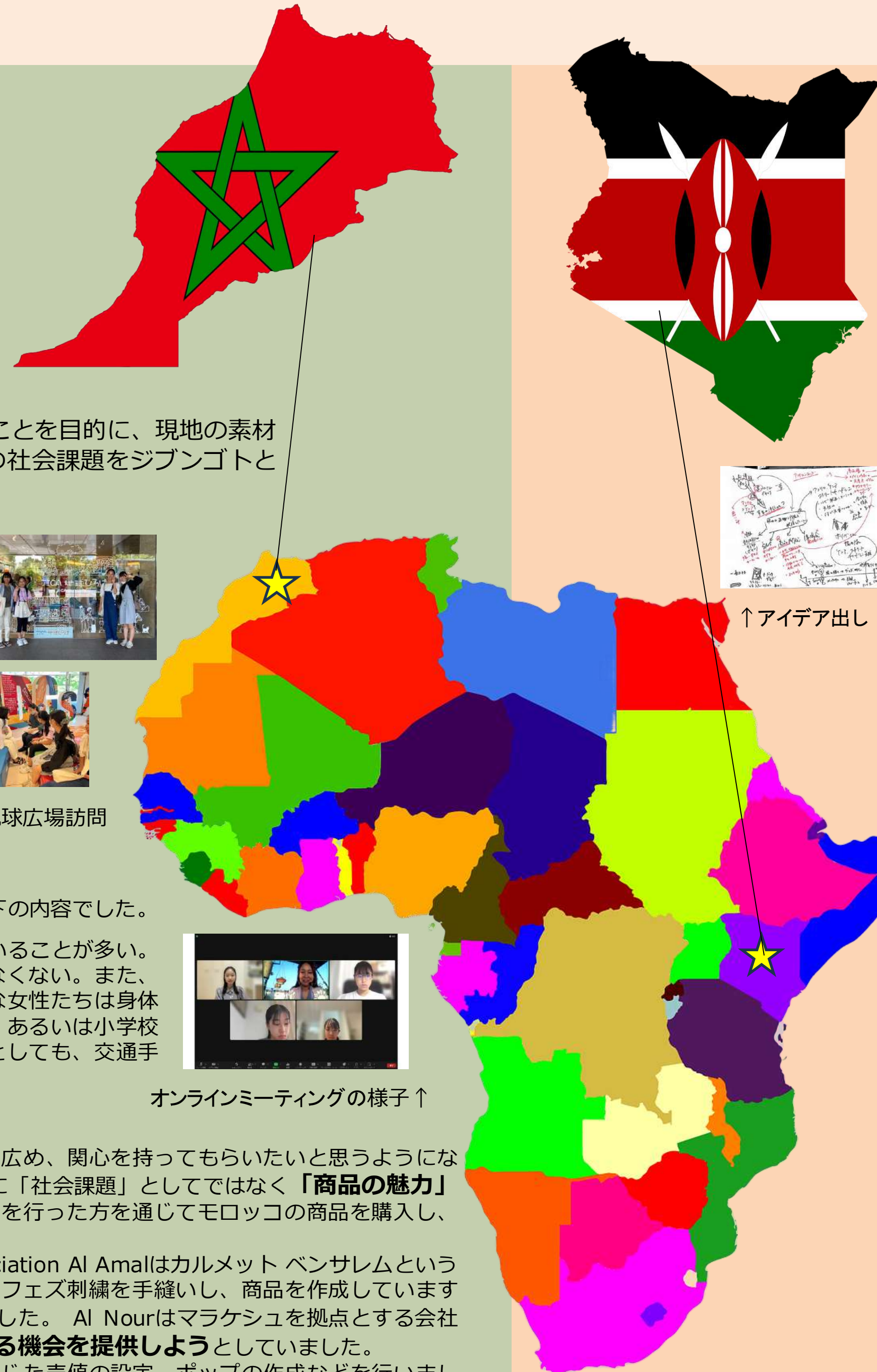
モロッコの支援活動をしているなか、9月9日にモロッコで大きな地震がありました。Al Nour のある都市マラケシュも甚大な被害を受けたと聞き、私たちが力になりたいと思い、校内募金・街頭募金をしようと考えました。募金活動は計4日間で、元旦に起きた能登半島地震との共同募金としました。校内募金・街頭募金を実施するにあたり、地震についてのリサーチ、キャッチコピーの考案、ポスターや募金箱の作成などを行いました。活動中は、通行する人の心を動かす呼びかけをすることを意識しました。その結果、校内、街頭合わせて114,236円を集め、NPO法人AAR Japanに寄付することができました。

【今年度の活動】

昨年度は、モロッコ女性の雇用問題について多くの人に知ってもらい、問題解決に貢献する活動を行っていました。しかし、モロッコ地震の募金活動などをやる中で、モロッコの問題意識を持って活動しているのかを見失いつつありました。したがって、今年度はmoroccoプロジェクトのビジョンを再度見直し、モロッコの「宗教」を知ってもらう活動に切り替えることにしました。昨年度の1年間の活動を経て、モロッコ女性の雇用問題は解決すべき重大な課題ではあるものの、その根本の原因は女性差別というよりも、宗教上の理由による男女の役割の分担であることがわかりました。再度、モロッコで活動している日本人の方とミーティングを行いました。ミーティングを経て目を付けたのは、「犠牲祭」と呼ばれる、羊などの動物を犠牲として神様に捧げて信仰を講ずる祝祭です。犠牲となった羊は食べられてしまいますが、羊の皮は残ってしまっているという情報を教えていただきました。したがって、羊の皮を活用した商品を開発・販売することで、「宗教」がもたらす多様な価値観を広めると同時に、犠牲になってしまった羊の余った皮に新たな価値を持たせようと考えました。羊の皮を活用した代表的な製品としてバブーシュが挙げられますが、中学生には少し手に取ってづらいにくいことが考えられます。私たちがターゲットとする中学生に「宗教」を知ってもらうため、より身近で手に取りやすい商品を開発しようと考えています。

【今後の展望】

今後は、9月に行われる学園祭での商品販売を目指して具体的な商品案の考案、試作品の制作、改善を繰り返し行い、羊の皮を活用した商品の開発を進めていきます。開発の過程の中で、商品を通じたモロッコの宗教の伝え方について特に検討を重ねていきたいと考えています。現時点では、「犠牲祭」についての解説が書かれたタグを添付することを考えています。さらに、これまで取り組んできたモロッコ女性の雇用問題の解決にも貢献するために、販売した商品で得た売り上げの一部をモロッコに寄付することも検討しています。また、SNSで私たちの活動状況の報告や商品の紹介をすることで、より多くの人に活動を周知していく予定です。学園祭後は商品の規模や販売拠点を拡大し、最終的にはより多くの中学生が「宗教」による差別のない世界の構築に向けて働きかけることを目指します。



KENYA

Daisy Days for Kenya
~商品開発でストリートチルドレン問題を発信！~

【活動概要・活動目的】

ケニアで暮らすストリートチルドレンに関してより多くの人に知ってもらい、支援に関わってもらうために、アフリカの伝統的なプリント生地「キテンゲ」を使用し、中学生にとって「身近」「魅力的」な商品の開発やワークショップを行っています。また、商品やワークショップの売上の一部を、ストリートチルドレンの社会復帰支援を行う「Tumaini Innovation Center」へ寄付し、授業に必要な物品の購入費となり、ストリートチルドレンの教育環境の向上へとつなげていきます。

【活動の経緯】

2022年11月に、「中学生が社会貢献を身近に感じるために私たちができることは？」という問いから、私たちの活動は始まりました。本校の卒業生で、現在青年海外協力隊としてケニアのストリートチルドレンの社会復帰支援を行っている「Tumaini Innovation Center」で活動されている堀部聖人さんとの出会いから、ケニアを拠点とするプロジェクト、「Daisy Days for Kenya」が開始しました。堀部聖人さんとのつながりを通して、アフリカ布を使った商品を開発する「RAHA KENYA」さんにアフリカの伝統的な布である「キテンゲ」のバブーシュを提供していただけることになりました。より、キテンゲを活用した商品開発を行い、ケニアのストリートチルドレン問題に関する現状を発信することを決めました。



【活動の詳細】

○正確な情報の収集

正確な情報を発信するためには、まず私達自身が正確な情報を得ることが必要です。そのため、青年海外協力隊の堀部聖人さんとオンラインミーティングを月に一回行っています。主に行っていることは、私たちの活動経過報告とフィードバック、そして、現地での活動に関する共有です。現地でも知ることでできない環境や生徒の様子、ケニアのストリートやスラム街の様子であったり、実際に感じている課題などを話して下さることで、正確な情報を得ることができています。

○商品開発の試行錯誤

中学生が魅力的に感じるであろうものや、人々に身近に置いてもらえるような商品を開発し、試作品を作成しました。また、メリット・デメリットについて話し合い、改善を重ね、商品化するものを決定します。

○情報発信

私たちの一番の目的である、商品に載せてストリートチルドレンについて現状を伝える方法も話し合います。現在は、タグに情報をまとめ、商品につけることによって情報を伝えています。タグも、改善を重ねて、ラミネートしたり販売するときにそのままでも、お客さんにつけてもらうなどの工夫で長く持ってもらえるようにしています。また、中学生に身近なInstagramを活用し、私たちの活動やストリートチルドレン問題の現状について発信しています。

○ストリートチルドレン問題の改善

私たちは、商品の売上の約70%をストリートチルドレンの社会復帰支援を行う「Tumaini Innovation Center」へ寄付しています。寄付したお金はタブレットや分度器・コンパスセットなど、現地の学習のニーズに合った支援へ当てられています。このプロジェクトが今後より展開することで、寄付できるものが増え、ケニアの子どもの学習環境の改善に貢献することができます。職につくことの出発点も子どもたちが増え、貧困の連鎖を防ぐことで、ストリートチルドレン問題の改善につながります。

【活動のプロセス】



【今までの活動】

- 2023年8月 — 商品開発第一弾：巾着ポーチ・しおり・スマホストラップ・イヤリングの4つの商品を開発。
- 2023年9月 — 本校の学園祭：Daisy Days for Kenya としての初めての販売。夏休み期間に制作を行い、商品開発第一弾の商品を、多くの方に手に取っていただくことができた。
- 2023年10月 — チルコロ DE ハロウィン：Daisy Days for Kenya としての初めての外部販売。地域の方々から私たちの活動やストリートチルドレン問題の現状について伝えることができた。
- 2023年11月 — ワークショップ [Nyota Charm] の開発：参加者が自分で作ることで、愛着が生まれると考えた。商品をより身近に感じてもらうことによって、商品とともに伝えるケニアのストリートチルドレンの現状を自分ごととして捉えてもらえる。
- 2023年11月 — MoFF Fes：渋谷の北谷公園でのイベントで、初めてのワークショップを開催した。
- 2024年1月 — 寄付：青年海外協力隊の堀部聖人さんが一時帰国された際に、学園祭・チルコロ・MoFF Fes など得ることのできた売上の一部の33960円を、直接お渡しすることができた。
- 2024年3月 — 商品開発第二弾：第一弾に続き、第二弾では、シュシュとランチョンマットの2つの商品を開発した。
- 2024年3月 — みらいをつくる超・文化祭：Daisy Days for Kenya として、ソーシャルアクションフェアに参加した。商品開発第二弾の初販売を行ったり、プレゼンテーションなどを通して、活動の経緯や私たちの想いを沢山の方々に向けてもらえた素敵な機会であった。



私たちの「夢」

私たちの夢は、遠い国の課題解決です。モロッコ女性の雇用問題や、ケニアのストリートチルドレン問題を解決するためには、質の高い支援を行う必要があります。

現在はまだ、問題解決に「貢献している」という段階であり、問題解決に直接的にインパクトを与えているとは言えません。ですが、私たちは遠い国の課題解決を目指します。

固定概念によって、アフリカ=貧しいだとか、ストリートチルドレン=かわいそう、といった平たいイメージだけで終わってしまうのではなく、「知る」→「意識する」→「調べる」→「行動する」といったステップでの援助が理想的だと考えました。

そのためにも、私たちは幅広い人々に現状が届け、解決に向けて行動できるような情報提供に今後も取り組んでいきたいと考えています。現在はモロッコとケニアに拠点を置いています。今後は活動の範囲を他の地域にも広げていきたいと考えています！



2009年 東京学芸大学附属国際中等教育学校ボランティア部として創立。
2019年 創立10周年をむかえそのボランティアにとどまらない活動から、
ソーシャルアクションチームと改称。
Vision : 「中学生があたりまえに参画できる社会を実現する。」
Mission : 「中学生が参画しやすい社会を創るために、
中学生のモデルとなる。」
主活動：地域の魅力や課題を発見・発信・解決する地域に根ざした活動から、国際協力や、寄付のチャラについての教育、環境問題などと多岐に渡って活動しています。これからもたくさんの人とのつながりを大切に、中学生の社会貢献活動の可能性を広げていきます！